

令和5年度 江東区立 東陽中学校 自己評価表

校長名 関根 淳之

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		学力の向上			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	生徒が主体的に学習し、深い学びを進められる授業への改善を全教職員で取り組む。 生徒がわかる授業、学ぶ楽しさや喜びを味わえる授業を実践する。	58.3% 83.3%	生徒による授業評価アンケートで各教科の ・授業内容がよくわかった ・わかる楽しさを感じられた の質問に対する肯定的回答 $\geq 80\%$ 学校評価アンケートにおける ・わかりやすい授業 ・基礎、基本が身につけている $A+B \geq 80\%$	91.8% 89.6% 85.3%	B
2	全教員が授業等学習活動にタブレット端末やICT機器を積極的に活用する。	75%	学校評価アンケートにおける授業等で Chromebook を使うことによる学習効果や学習意欲の高まりに対する肯定的回答 $\geq 80\%$ こうとう学びスタンダードアンケートにおける ・ Chromebook を使った学習は楽しい ・ Chromebook を使った学習 はわかりやすいに対する肯定的回答 $\geq 80\%$	77.4% 86.6% 88.8%	B
3	全教員による、こうとう学びスタンダード～ネクストステージ～の定着、こうとう学びスタンダード8項目の徹底を指導する。	100%	学校評価アンケートにおける学び方スタンダードの8項目を守っているに対する肯定的回答 $\geq 80\%$ こうとう学びスタンダードアンケートにおける 学び方アンケート8項目の結果に対する肯定的回答 $\geq 80\%$	73.8% 82.1%	B

<結果についての分析と改善策>
 生徒が主体的に学習する、わかる・楽しい授業への改革・改善を目標に掲げ、全教員が一丸となり取り組むよう促した。生徒からは概ね良好と思える達成度となったが、教員の取組（自己評価）にもう一歩と思える要素があったので、評語をBとした。タブレットの活用については、やはり教員による差があることは否めないが、学校全体ではできる限り活用するという雰囲気が高い、生徒からも楽しい、わかりやすいという意見が多数である。一方、これが学習意欲の高まりにつながっていないような意見もあるので、この改善を行う。学び方スタンダードについては、年度当初（スタンダードアンケートを実施した4月）は意識が高かったが、徐々に薄れ年度末の学校評価では目標を下回る結果となった。意識の継続について考えるとともに、特に結果が低かった姿勢と家庭学習について向上に向けた方策を探り実践する。

重点領域2		豊かな心の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	いじめや問題行動のない、全校生徒が安全で安心できる学校生活を送れる東陽中とする。 問題行動への適切な指導、いじめ防止や早期解決への適切な指導に全教職員で取り組む。	100%	こうとう学びスタンダードアンケートにおける いじめはどんな理由があってもいけないに対する肯定的回答 $\geq 80\%$ 学校評価アンケートにおける いじめなどの困ったときの対応 $A+B \geq 75\%$	92.3% 75.0%	A
2	学級や学年、生徒会活動において生徒に役割を与え、その役割の責任を果たすことにより、自己有用感を高める指導を展開する教員を100%とする。	91.7%	学級や学年、生徒会の委員会活動、部活動等で自身の役割や責任を果たし、貢献していると思う生徒の割合を70%以上とする	65%	B
3	全教員による不安や困り感を抱えている生徒へ真の寄り添った指導を展開し、適切な支援、指導を行う。	100%	学校評価アンケートにおける ・教員の生徒理解 ・困ったときの迅速な対応 ・相談しやすい体制 $A+B \geq 80\%$	81.7% 75.0% 75.6%	B
<p><結果についての分析と改善策> 生徒に笑顔があふれる東陽中をスローガンに、安全安心な東陽中で真の生徒に寄り添った指導を全教員で展開し、教員の自己評価にこのことが表れている。しかし、生徒の評価では困ったときの対応について、75%の肯定的な回答と昨年よりは向上したものの、目標とした80%に達しなかった。社会の変化が著しい今日、相談活動の充実は生徒の学校生活充実に欠かせないことと考える。次年度も更なる充実を目指し、工夫を重ねる。また、今年度は自己有用感の向上も目標とした。教員は様々工夫したが、生徒の気持ちでは未達成と考える。この点も次年度への継続課題とする。</p>					

重点領域3		体力の向上と健康な生活			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	学校生活の様々な場面で、生徒が自ら運動に取り組むよう指導する教職員を100%とする。	70%	保健体育科の授業、体育的行事、部活動等で体力向上の大切さに気づき、自ら進んで運動をする生徒の割合を70%以上とする	75%	B
2	がん教育や、薬物乱用防止教室、生活習慣病の予防、メンタルヘルス等健康教育に積極的に取り組む教職員を100%とする。	91.7%	こうとう学びスタンダードアンケートにおける 保健体育の授業は好きか に対する肯定的回答 $\geq 70\%$	77.9%	B
3	保健体育科の授業で運動することの良さや楽しさを実感させ、体力が向上したことを実感させる。	90%	こうとう学びスタンダードアンケートにおける ・保健体育の授業は好きか ・保健体育の授業で前よりできるようになったことがある ・ウォームアップタイムに積極的に取り組む に対する肯定的回答 各 $\geq 70\%$	77.9% 87.0% 92.0%	B

<様式1>

<結果についての分析と改善策>
 昨年度に引き続き、体力の向上に向けて、保健体育科の授業や体育的行事、部活動を中心に学校全体で取り組んだ。その成果が少しずつ表れ、この自己評価の指標である諸アンケート調査結果では教職員や生徒の意識向上が表れ、昨年度に比べ良い結果となった。しかし、都の生徒体力・運動能力等調査結果からは、ここ数年の課題である持久力をはじめ、都平均を下回る項目が多く、体力の向上については継続して取り組まなければならない課題と捉える。すぐに体力調査の結果につながる取組を見つけることは難しいが、地道に取り組みを継続する。

重点領域4		信頼される学校・地域との連携			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	こどもを地域で育てる保幼小中の連携教育を充実させ、積極的に取り組む教職員を100%とする。 中高連絡会の内容も適切に伝える。	91.7%	学校評価アンケートにおける 進路や進学についての適切な情報発信をしている A + B ≥ 85%	67.6%	B
2	全教職員で情報発信に努めるとともに、その情報が伝わるよう発信の仕方を工夫する。 学活やPTA・地域の会合等で生徒や保護者、地域の方へ宣伝する。	100%	学校評価アンケートにおける ・積極的な情報発信 A + B ≥ 80% ・学校が発信するプリントなどを読んでいる A + B ≥ 70%	91.5% 57.9%	B
3	コロナの感染症法上の扱いが変わるので、復活すると思われるPTA行事や、地域行事へ積極的に協力する教職員とする。 また、そのような諸行事への生徒の参加を呼びかける。	91.7%	学校評価アンケートにおける 地域の方との交流への肯定的な回答（幼稚園へのボランティア参加や地域清掃への参加） ≥ 60%	88.6%	A

<結果についての分析と改善策>
 保護者・地域から信頼される学校を目指し、ここ数年積極的な情報発信に努めている。この取組の甲斐があり、学校評価において良い評価を得ているが、進路に関する情報提供が弱い結果も見られる。進路だよりの発行等工夫しているが、次年度は生徒や保護者の心情に寄り添い、より工夫した丁寧な情報を提供する。今年度はコロナ禍をこえ、祭礼や盆踊り等地域行事が復活、生徒も活発に参加、その結果がアンケート結果にも表れている。教員の参加形態については働き方改革も鑑み、新たな方策を探りながら協力していく。

- 【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
 A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
 B：50%以上90%未満
 C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）